

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：グループホームはなんばの里

施設種類：グループホーム・小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）

日時：令和7年7月30日 14時～15時

会場：デイサービスセンターやまもも

出席者
（人数）

利用者代表	0人	有識者	0人
利用者家族	2人	高齢者あんしん支援センター職員	1人
地域住民の代表	2人	出雲市職員	0人
その他（潮風苑施設長、はなんばの里施設長）			2人

（議題）

1. 利用者状況報告
2. 活動状況報告
3. 今後の行事予定について
4. 身体拘束等適正化について

（報告・説明事項）※グループホームはなんばの里に関するもの

利用者の状況報告	・現入所者数、申込者数、入退所状況、入所者状況、（性別、介護度、年齢） ※前回運営推進会議以降入退所なし
活動状況報告	・6月～7月に実施した主な行事・活動の報告 〔演芸ボランティア鑑賞〕
今後の行事予定について	・はなんばの里夏祭り（8月6日）、敬老会（9月9日）、おはぎ作り（9月24日）、 消防避難訓練（9月30日）
身体拘束等適正化委員会の設置について	・身体拘束等の状況報告（身体拘束等廃止委員会（詰所会議）からの報告）

●議題1～3（利用者状況・活動状況・今後の行事予定）

（会議の内容…評価、要望、意見、助言等）

○ 地域住民の代表より

職員不足で行事が思うようにできなかったということですが、実際どのくらい不足していますか。

⇒ **施設より**

現在は2名不足しています。8月になると休職が明け1名の職員が戻ってきますので来月からは1名不足しているということになります。法人内の事業所はどこも職員不足です。ホームページや回覧、チラシなどで職員を募集していますが、思うように人が来ません。どなたか働きたいという方がおられれば紹介していただくとありがたく思います。

○ **家族の代表より**

どこの施設でも職員さんが不足していて大変ですね。介護職員のなり手も少なく、介護福祉士を育成するような学校も定員割れしていますね。

⇒ **施設より**

この法人の事業所だけでなく、他の法人についても職員は不足していると聞きます。ただ、介護職員の離職率は2年連続で僅かですが低下しており、定着の方に転じているという事実もあります。昨年ごろから生産性向上について頻繁に言われるようになり、入所施設では委員会を設立し、効率的に業務を遂行し職員の負担の軽減を図ったり、サービスを向上させるなどの取組を進めるようにと国が示しているところです。令和9年の3月末までは猶予期間となっています。そういったことを行うことで職員の負担軽減を図り、これから入職してくる職員も働きやすい職場とすることができ、現在いる職員も長く続けられるというような職場作りができればよいと思っています。

○ **あんしん支援センター職員より**

ボランティアはどこから来られましたか。

⇒ **施設より**

多伎町内のボランティアグループにおいでいただきました。

○ **地域住民の代表より**

コロナ禍以前から受け入れをしておられたボランティアグループですか。

⇒ **施設より**

コロナ禍前は町内の大正琴のボランティアグループや抹茶を点てるグループ、折り紙、習字を教えてくださいグループにも来ていただいていた。コーラスグループからもご依頼があり受け入れをしようと思っていたところですが、コロナの影響でそれ以降受け入れすることができませんでした。社協さんから色々なボランティア団体を紹介していただきましたので、これからは折を見てお願いしたいと思います。

○ **家族の代表より**

潮風苑や老健たきでも評判が良かったと聞いています。

⇒ **施設より**

町内にも今回と違うボランティアの方々がいらっしゃいます。どのようなボランティア団体か分かっているれば、感染対策もでき受け入れもしやすいと思いますので積極的に受け入れをしていきたいと思っています。

○ **地域住民の代表より**

職員不足の中、独自で行事を行うより、ボランティアグループに来ていただいて披露していただくことの方がやりやすくないですか。

⇒ **施設より**

そうですね。行事を行うとなると、企画の段階から片付けまで職員がすべて行うことになり、行事によっては、企画自体に時間をとられてしまうこともあり、職員が不足している中

ではより負担になっていると思います。上手にボランティアを活用し、職員の負担軽減を図ることやご利用者にも楽しんでいただける機会を増やしていきたいと思います。

●議題 4（身体拘束等適正化について）

○ 施設より身体拘束廃止委員会（詰所会議）の報告

- ・身体拘束廃止委員会（詰所会議）から別紙のとおり身体的拘束等の状況報告を行った。報告に対する質問・意見・要望等はなし。

別紙

- 身体拘束の状況：緊急やむを得ない場合を含め、全く行っていない。
- 教育・研修等の開催：今年度はまだ実施していないが、来月（8月）に詰所会議内で実施予定。
- 日常的ケアに対する取り組みと見直し：毎月、詰所会議にて高齢者虐待、不適切なケアについて話し合いの場を持ち、翌月の月目標として挙げ取り組んでいる。また、日常的ケアに対する見直しを基に日々のケアを全職員で振り返り、適切なケアへと繋げていくようにしている。

【6月の詰所会議時に話し合った内容について】

テーマ：『トイレの扉が開けっ放しのまま排泄介助をしている』

はなんばの里では、ご自分でトイレに行かれる方は数名で、多くの方については職員がトイレ誘導をしています。扉の構造上の問題もあるかと思いますが、閉めたつもりでもわずかに開いてしまうことがあります。特に歩行の不安定な利用者の介助にあたっては、自動で閉まるという安心感や常に付き添っていないと危険であることから扉がわずかに開いたままでもそのまま排泄介助を行ってしまっているという現状があります。

「自分だったらどうか」 → 公共の場でわずかでも扉が開いていたら、排泄する気持ちにはならないだろうと考え、話し合いをしました。

扉が開いたままになっている理由としては、

- ・閉めたつもりでいた。
- ・少しなら大丈夫という気持ちがあった。
- ・ご利用者から手や目が離せずそのままにしてしまった。
- ・扉を最後まで閉めると大きな音がしてご利用者がびっくりするから。
- ・開いていると思いながらそのまま介助をしてしまっていた。

などが挙がりました。

月目標として

職員それぞれが意識して扉を閉め、開いていないことを確認し、そのうえで排泄時介助を行うようにする。

どうしても手が離せない時は他の職員に声をかけ閉めてもらう。

開いているのを見かけたら閉めるようにする。

1か月間、それぞれの職員がこの目標を実施し、7月の詰所会議で振り返りを行いました。

- ・意識して取り組むことができました。
- ・扉がきちんとしまっていることを確認し、排泄介助を行いました。
- ・扉が開いているのを見かけたら閉めるようにしました。

多くの職員が意識して取り組めたと話しました。排泄介助におけるご利用者の不快感や心配をなくし、安心して排泄できる環境作りを継続して行っていきたいと思います。

○ **地域住民の代表より**

少しでも扉が開いているとトイレで排泄しようとは思わないですね。歳をとっているからとかという理由でもなく、いくつになってもそういう配慮が必要だとは思いますが。

⇒ **施設より**

ご自分でトイレに行かれる方は少ないですが、認知症をお持ちでも習慣づいておられるようで必ず鍵をかけて排泄される方が殆どです。ご自分でトイレに行けない方でも本来はそういう気持ちをお持ちだと思っています。身体的にできないだけであって、介助者が気をつけて気持ちに寄り添った対応をしていかないといけないと思っています。

「少しくらいならいい」ということではないと思います。現在の施設長が異動してくる前にもトイレの扉を開けたまま排泄介助を行っていたということも聞いています。時間が経過するとまた同じようなことを繰り返してしまうようです。色々な理由があると思いますが、詰所会議などで話し合い最善のケアをしていかないといけないと思っています。

○ **地域住民の代表より**

職員さん同士が声をかけあってカバーしあうのは、チームワークが取れていいことですね。

⇒ **施設より**

人数が少ないからこそ、声をかけあって協力していかないといけないと思っています。

(その他)

○ **次回開催予定日** デイサービスセンター やまもも 9月24日(水)